

原子力事業所安全協力協定加盟事業所原子力防災訓練見学会（原子力科学研究所）

〔開催日〕 令和4年3月8日（火） 13：30～16：00

〔場 所〕 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究所

〔参加者〕 協定加盟1事業所から1名参加

〔訓練見学会概要〕

運転中のJRR-3施設において1次冷却系配管からの原子炉冷却材漏えいが発生し、警戒事象になり、施設敷地緊急事態及び全面緊急事態に進展するとともに、第1廃棄物処理棟においては高性能フィルタ2個脱落による気体放射性物質の外部への異常放出が発生し、施設敷地緊急事態及び全面緊急事態に進展する原子力災害を想定して訓練が行われた。

JRR-3では、原子炉プール水位低下が発生し、水位低下が続くとともに、サイフォンブレイク弁が動作せず、警戒事象、施設敷地緊急事態、全面緊急事態に順次進展した。

サイフォンブレイク弁遠隔操作に失敗したことから、作業員による手動開操作で同弁を開き、水位低下を終息させた。また、1次冷却系止め弁閉止操作を行った。

その後、軽水貯留タンクから原子炉プール水を供給し原子炉プール水位が回復し、全面緊急事態、施設敷地緊急事態の判断条件からの回避を順次確認した。

一方、第1廃棄物処理棟では、外部への放射性物質の異常放出が発生し、施設敷地緊急事態及び全面緊急事態に進展した。

カートンボックスを回収し、焼却炉内の廃棄物の燃焼終了を待って、焼却処理設備と建家の排気を停止した。その後、脱落した2個の高性能フィルタを復旧し、建家排気を再開して、全面緊急事態及び施設敷地緊急事態の判断条件からの回避を確認した。

「事象進展対策シート」、「発生事象状況確認シート」等の視覚情報を用いて、機構対策本部を介して原子力規制庁ERCへ正確で分かりやすい情報共有を行った。

2施設で複数のEAL事象が発生したが、現地対策本部は、情報統括者が事故現場指揮所からの情報の重要度に応じて、機構TV会議システムでの事故現場指揮所の発話のタイミングをコントロールしながら、2施設の情報を整理して、機構対策本部へ情報提供した。

協定加盟事業所より参加した見学者は、訓練概要の事前説明を受けた後、緊急時対策所、現場指揮所（JRR-3、第1廃棄物処理棟）及び模擬プレス発表を見学した。



緊急時対策所



「JRR-3」現場指揮所



「第1廃棄物処理棟」
現場指揮所

以上